

美術館としての万博

弁護士知財ネット会員
弁護士 雨宮 沙耶花

1 はじめに

大阪万博見てある記は、5月号・6月号と、いろいろな先端技術や日本の文化が紹介されているところですが、私の方では、大学生・高校生・中学生の娘3人を連れて行きましたので、女子向けの見てある記をお送りしたいと思います。

私は理系も好きなのですが、娘達は理系に全く興味がなく、パビリオン希望は、フランス館とイタリア館で、行ってみて一番よかったのもフランス館、とのことでした（三女は、くら寿司が一番だったとのことですよ・・・）。

2 フランス館

フランス館は、予約できないパビリオンで、逆に言うと、予約しなくても入れるため、隣のアメリカ館とともに、開園後すぐに長蛇の列となります。

我が家は、開園時間の1時間前に東ゲートに到着し、開園して10分ぐらいで入園できましたので、フランス館も、10分待ちぐらいで入れました。

フランスパビリオンのテーマは「愛の賛歌」。「愛に導かれる新しい未来のビジョンを提案します」ということですが、我が家の娘たちは、フランスの象徴ともいえる著名ブランドがたくさん展示されているというところにテンションが上がったようです。

まず、大きなインパクトを受けるのは、ルイ・ヴィトンのモノグラム柄のワードローブトランクが壁一面、天井まで84個並ぶ空間。中央に置かれたトランクの上には、ロダンの彫刻「カテドラル」が展示されています。